

2025年度
(令和7年度)

紋別市における景気動向調査
＜第2四半期＞

報 告 書

紋別商工会議所

目 次

I. 調 査 要 領

- 1. 調査時点及び調査対象期間 1
- 2. 調査対象 1
- 3. 回収状況 1

II. 概 況

- 1. 全体の動き 2
 - (1) 今期の業況 2
 - (2) 部会別の動向 3
- 2. 今期の動向
 - (1) 今期の売上高・生産高 6
 - (2) 今期の採算 7
 - (3) 今期の資金繰り 8
 - (4) 今期の在庫水準 9
 - (5) 今期の借入金の金利水準 9
 - (6) 設備投資の実施状況 10
- 3. 来期の見通し
 - (1) 来期の業況見通し 10
 - (2) 来期の売上高・生産高見通し 11
 - (3) 来期の資金繰り見通し 11

III. 各 指 標

- 1. 各指標 12

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

- (1)調査時点 2025（令和7）年12月1日
(2)調査対象期間 2025年7月～9月期の実績および2025年10月～12月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス・諸業部会より各30社、計150社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回答率
商業+食品業部会	30社	13社	43.3%
水産業部会	30社	18社	60.0%
機械工業部会	30社	15社	50.0%
建設業部会	30社	22社	73.3%
観光・サービス業+諸業部会	30社	18社	60.0%
合計	150社	86社	57.3%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概 況

－今期の業況は前年同期よりも大幅な悪化。次期も厳しい状況が続く見通し－

1. 全体の動き(業況)

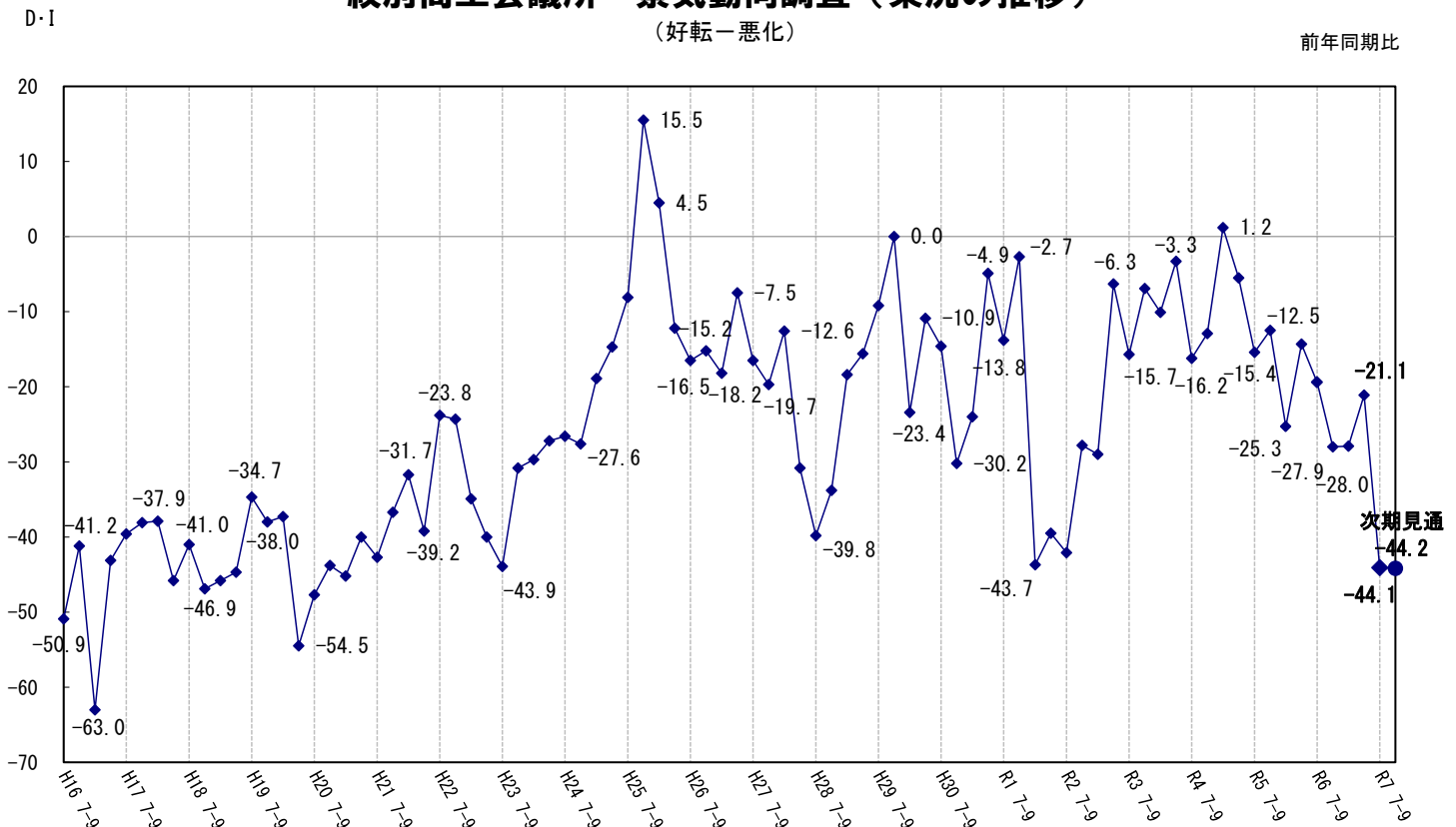
四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(2025(令和7)年7月～9月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比▲44.1**となり、**前年同期▲19.4から24.7ポイントの大幅な悪化**となりました。各部会における前年同期との比較は以下の通りです。

	前年同期 (R6.7～9月)	今期 (R7.7～9月)	増減幅
商業+食品業部会	▲50.0	▲46.1	3.9(回復)
水産業部会	▲5.0	▲55.5	▲50.5(悪化)
機械工業部会	▲23.6	▲26.6	▲3.0(悪化)
建設業部会	▲21.7	▲45.5	▲23.8(悪化)
観光・サービス業+諸業部会	▲4.6	▲44.4	▲39.8(悪化)

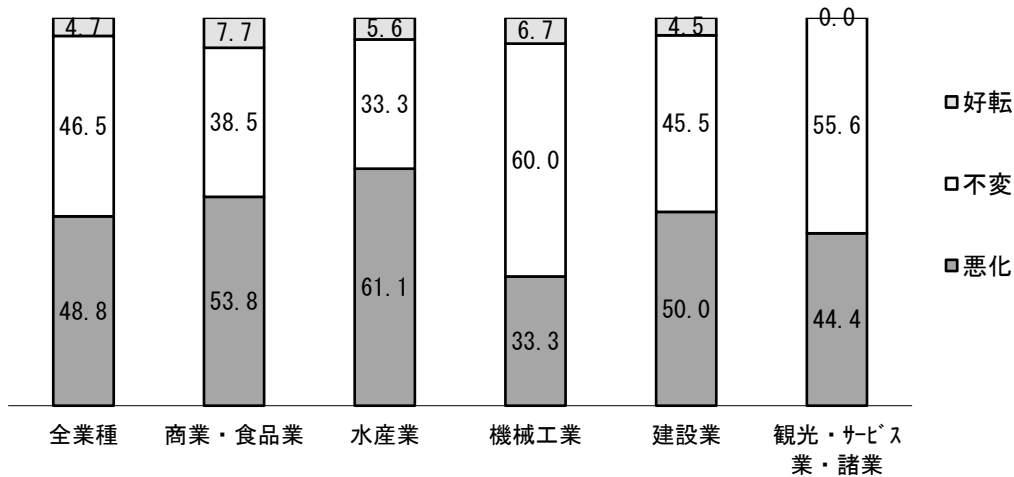
業況判断DIは、すべての業種でマイナスの値を示しており、機械工業部会を除く各業種ではマイナス40ポイントを超える水準となっています。中でも水産業は、前年同期と比べて50.5ポイント減少という結果となりました。主な要因としては、不漁による原材料不足や、それに伴う原材料価格の上昇を挙げる声が多く、これらが今回の結果に影響したものと考えられます。経営上の問題点としては、「原材料価格・材料単価・仕入単価の上昇」および「従業員の確保難」を指摘する声が多くなっています。

来期(2025(令和7)年10月～12月)については、業況判断DIは▲44.2と今期と同水準の見通しとなっており、厳しい状況が続く見込みです。

紋別商工会議所 景気動向調査(業況の推移)



今期の業況（前年同期比）



■部会別の動向

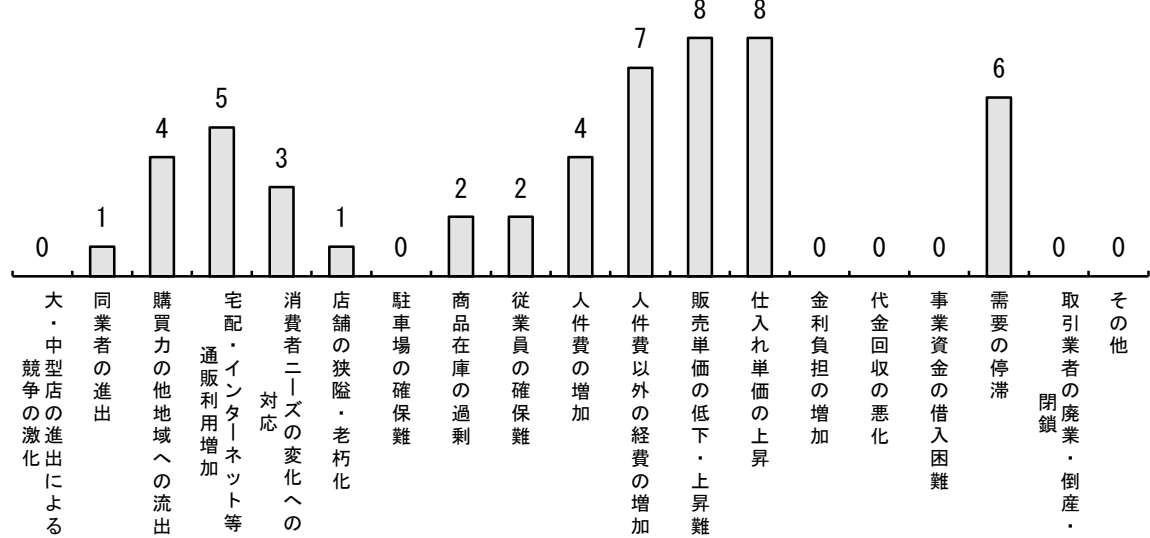
【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲46.1（前年DI値▲50.0、来期見通し▲38.5）〕

業況DI値（前年同期比）は、前年同期より3.9ポイントの回復となりました。業況悪化の要因としては、仕入単価の上昇や販売単価の上昇難に加え、宅配やインターネット通販の利用拡大による来店客数の減少を挙げる声が多く見られます。また、経営者からは周辺人口の減少を懸念する声も多く、厳しい経営環境が続いていることがうかがえます。来期の見通しは、DI値が▲38.5と、引き続き厳しい状況が予測されています。経営上の問題点としては、前述の項目に加え、「需要の停滞」や「人件費以外の経費の増加」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・周辺人口の減少（医薬品・化粧品小売業）
- ・夏の猛暑で、お客様が熱中症を避けるため外出を控えることが多く、売上が下がってしまった。コメの高騰を筆頭に、他の物価も高い。（食料品製造業）

経営上の問題点（商業・食品業部会）

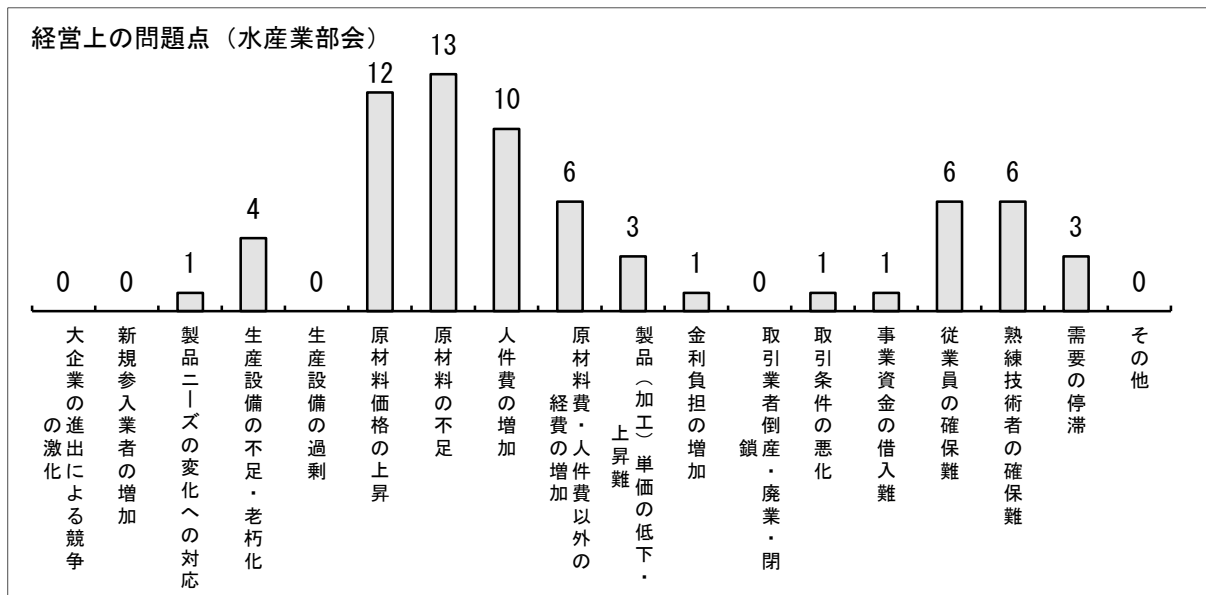


【水産業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲55.5（前年DI値▲5.0、来期見通し▲61.1）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、50.5ポイントの大幅な悪化となりました。主な要因は、オホーツク海における主要海産物の漁獲量が全体的に減少傾向にあることで、サケやホタテをはじめとする原材料の不足や価格上昇が業況を大きく押し下げています。これにより、原材料の安定確保が難しくなり、経営環境は一段と厳しさを増しています。来期の見通しはDI値▲61.1と、今期をさらに下回る水準が予測されており、厳しい状況が続く見通しです。経営上の問題点としては、前述の要因に加え、「従業員の確保難」や「人件費の増加」を挙げる声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・不漁（水産食料品製造業）
- ・原材料の歩留まりの悪さ（水産食料品製造業）
- ・若年層社員の確保（水産食料品製造業）

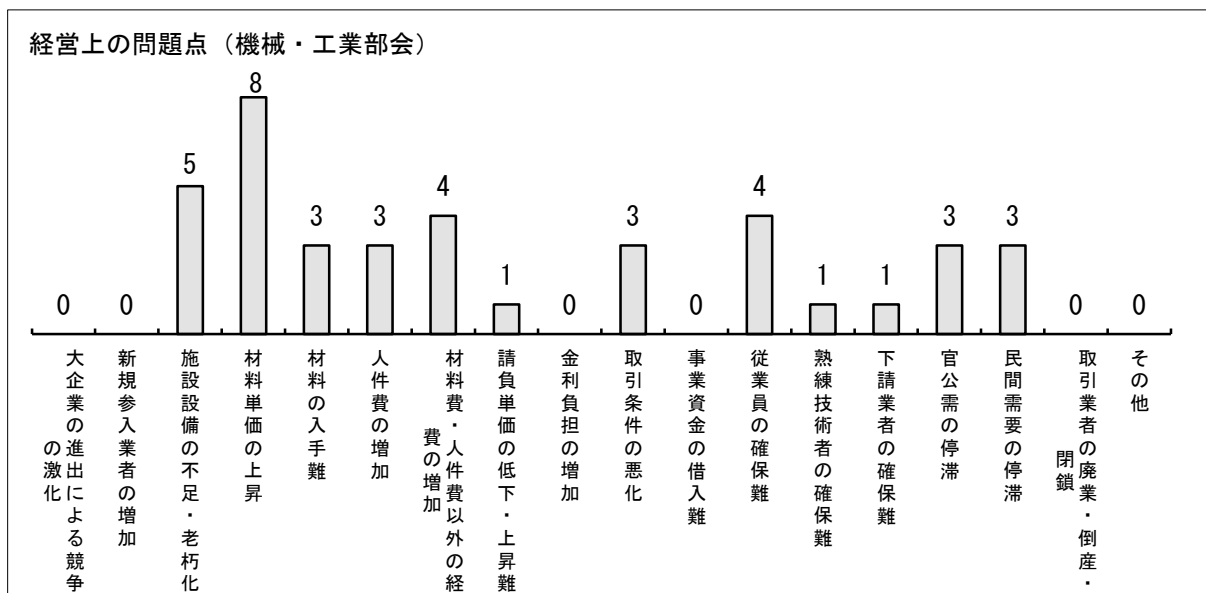


【機械・工業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲26.6（前年DI値▲23.6、来期見通し▲40.0）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、3.0ポイントの悪化となりました。材料単価の上昇については、回答企業の多くが共通の問題点として挙げており、部会全体に共通する課題となっています。一方で、それ以外の経営課題については、需要動向や人手不足、コスト構造など、事業所ごとに抱える事情の違いが表れている状況がうかがえます。来期の見通しは、DI値が▲40.0と、さらに悪化が予測されており、先行きに対する慎重な見方が広がっています。

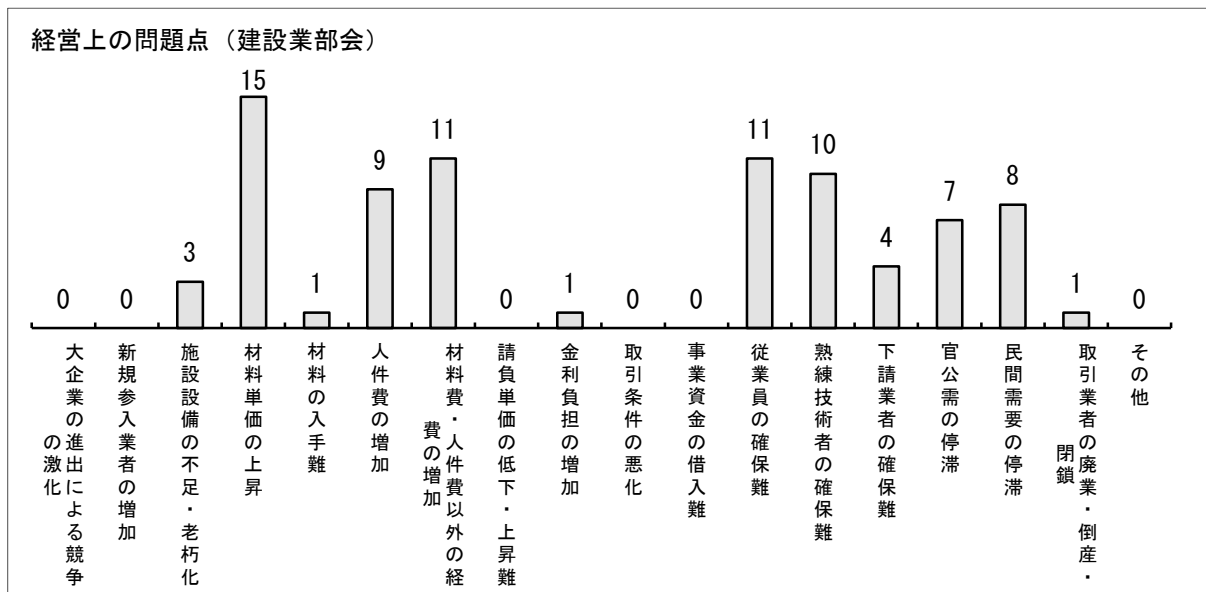
《業界の問題点等》

- ・下請け、外注先の確保難（機械等修理業）



【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲45.5（前年DI値▲21.7、来期見通し▲36.4）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、23.8ポイントの悪化となりました。「材料単価の上昇」や「経費の増加」に加え、「従業員・熟練技術者の確保難」、さらに「官公需および民間需要の停滞」など、複数の要因が重なり業況を押し下げています。特に人手不足は生産活動や受注対応に影響を及ぼしており、先行きへの不安感が強まっています。来期の見通しは、DI値が▲36.4とやや回復するものの、依然としてマイナス圏にとどまり、厳しい状況が続くと見込まれます。

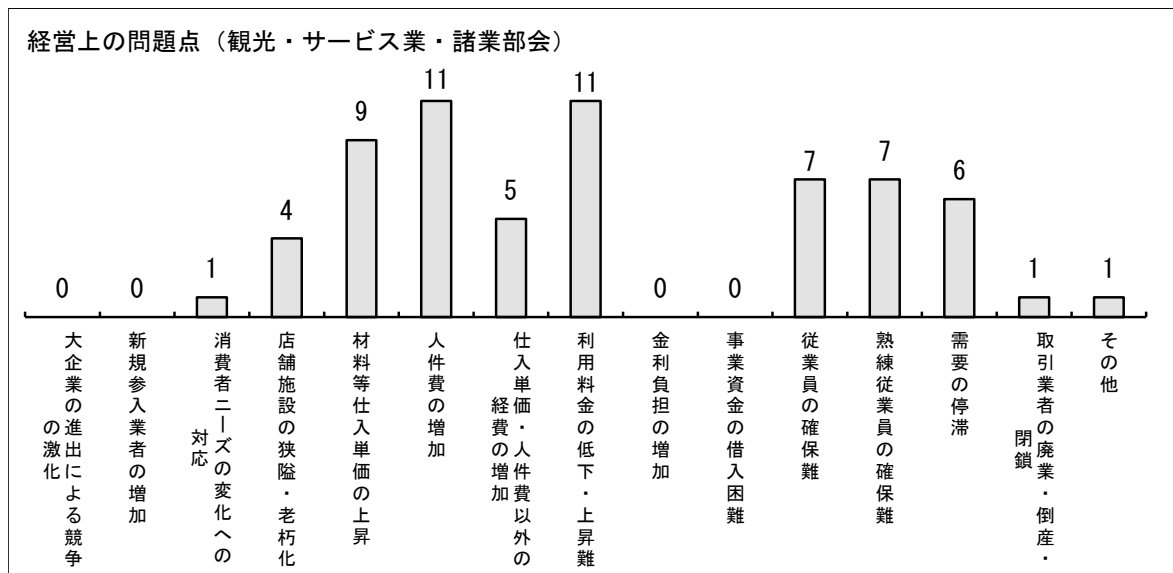


【観光サービス業・諸業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲44.4（前年DI値▲4.6、来期見通し▲44.4）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、39.8ポイントの大幅な悪化となりました。今期の調査では、「好転」と回答した事業所はなく、全体として厳しい業況が続いています。利用料金の引き上げが難しい中で、仕入単価や人件費を含む経費の増加が重なり、収益が圧迫されていることが業況悪化の主な要因と考えられます。次期の見通しについても、DI値は▲44.4と、今期と同様に厳しい状況が続く見込みです。経営上の問題点としては、前述の要因に加え、「従業員の確保難」を挙げる声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・ 諸般の物価高の影響が響いてきている。サービス業全体の人手不足と、経費の増加、これ以上の人件費の高騰は耐え難い。（飲食店）
- ・ 経費・仕入単価の上昇が厳しい。（飲食店）
- ・ 従業員の高齢化、燃料費等経費の増加、低運賃、国等による支援が弱い（貨物運送業）
- ・ 人材不足、人件費の高騰、諸経費の高騰（旅客運送業）
- ・ 景気が悪いからか、介護控えが多くなっている気がする。利用者の急な入院、支援開始前のキャンセル等、支援が安定せず、書類作成等業務多忙。（訪問介護事業）

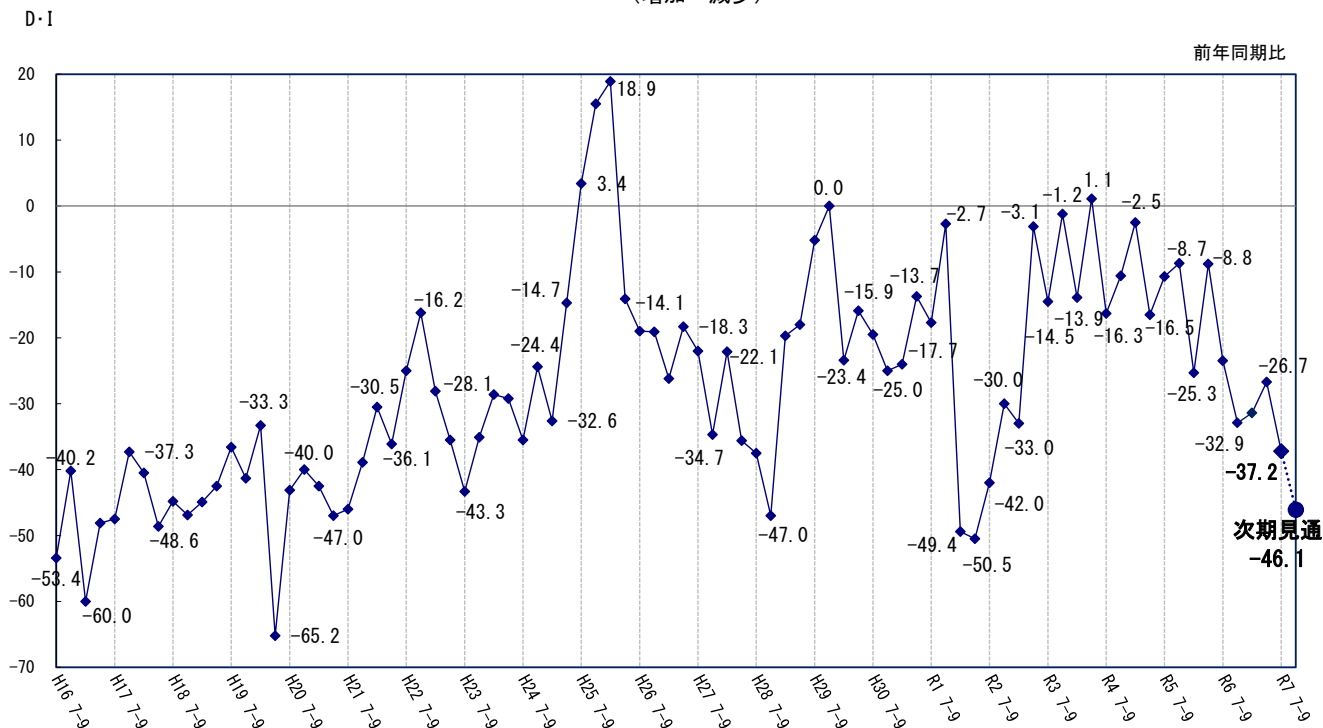


2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

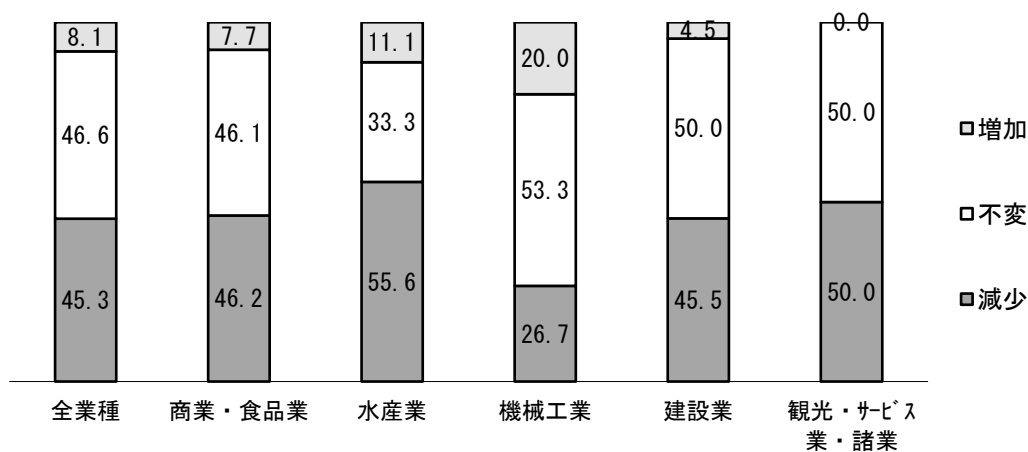
売上高・生産高推移（全業種平均D・I）

（増加－減少）



【前年同期比】（2024（令和6）年7月～9月期の水準と比較した今期の売上高）

今期の売上高・生産高（前年同期比）



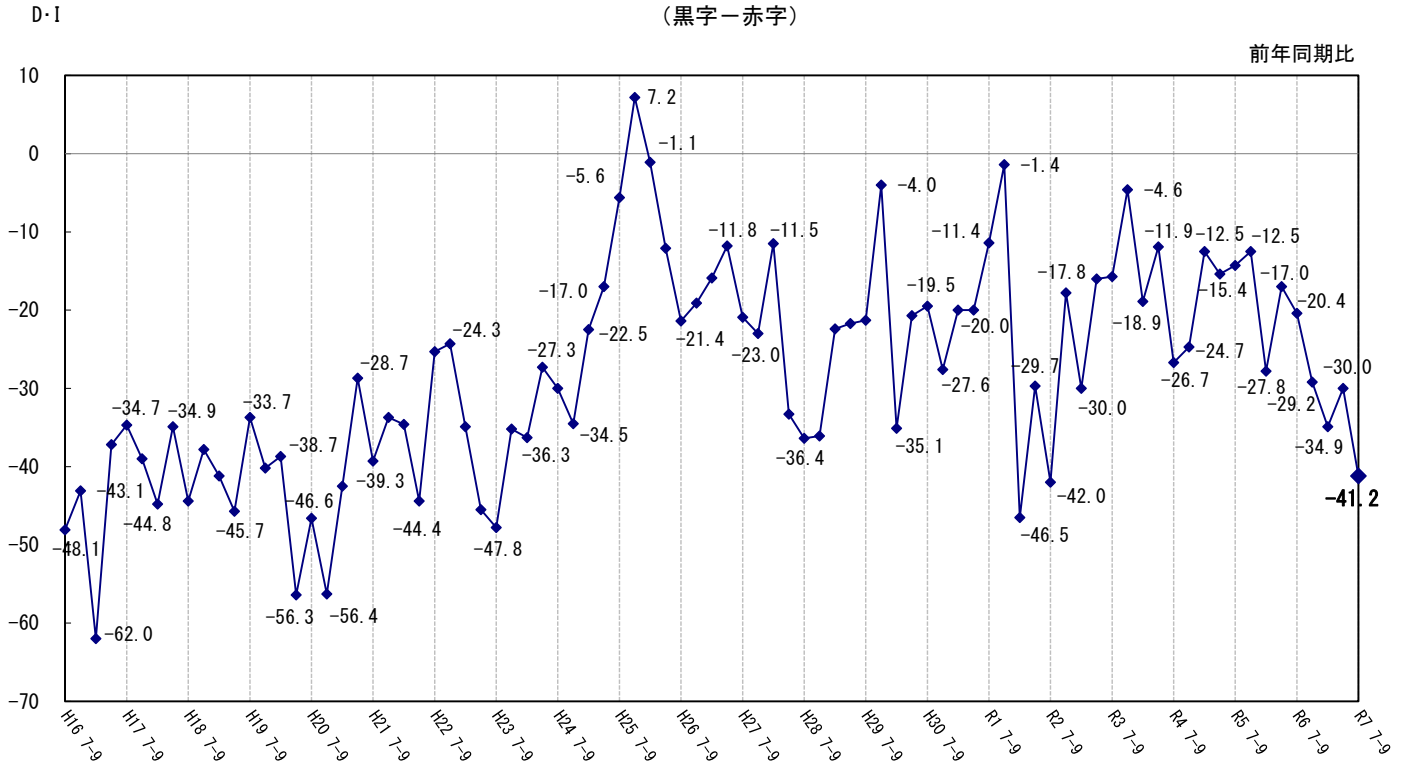
全業種平均でDI値▲37.2〔前年調査時（2024年7～9月期▲23.5）より13.7ポイント悪化〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲50.0→▲38.5〕 水産業〔前年▲25.0→▲44.4〕
 機械工業〔前年▲17.6→▲6.7〕 建設業〔前年▲4.3→▲40.9〕
 観光・サービス業・諸業〔前年▲4.6→▲50.0〕

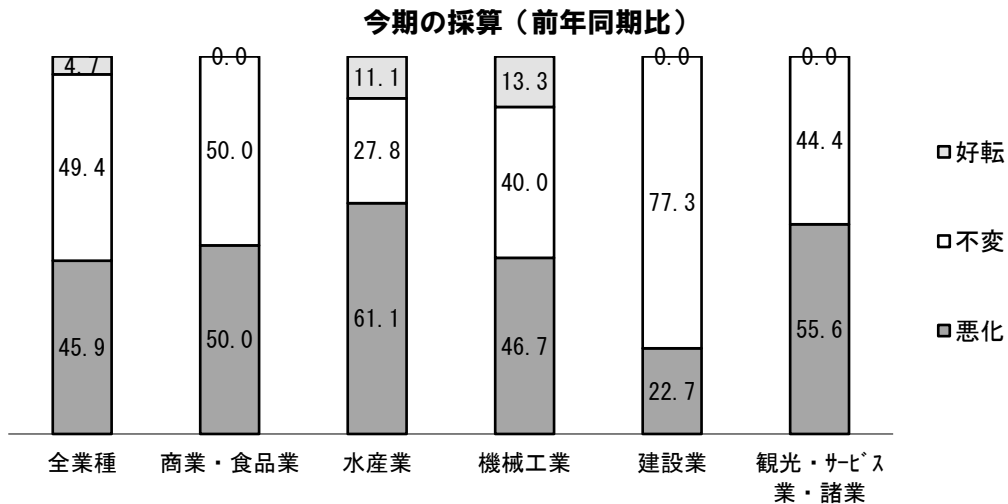
(2) 今期の採算

採算推移（全業種平均D・I）

（黒字＝赤字）



【前年同期比】（2024（令和6）年7月～9月期の水準と比較した今期の採算水準）



全業種平均でDI値▲41.2〔前年調査時（2024年7～9月期▲20.4）より20.8ポイント悪化〕

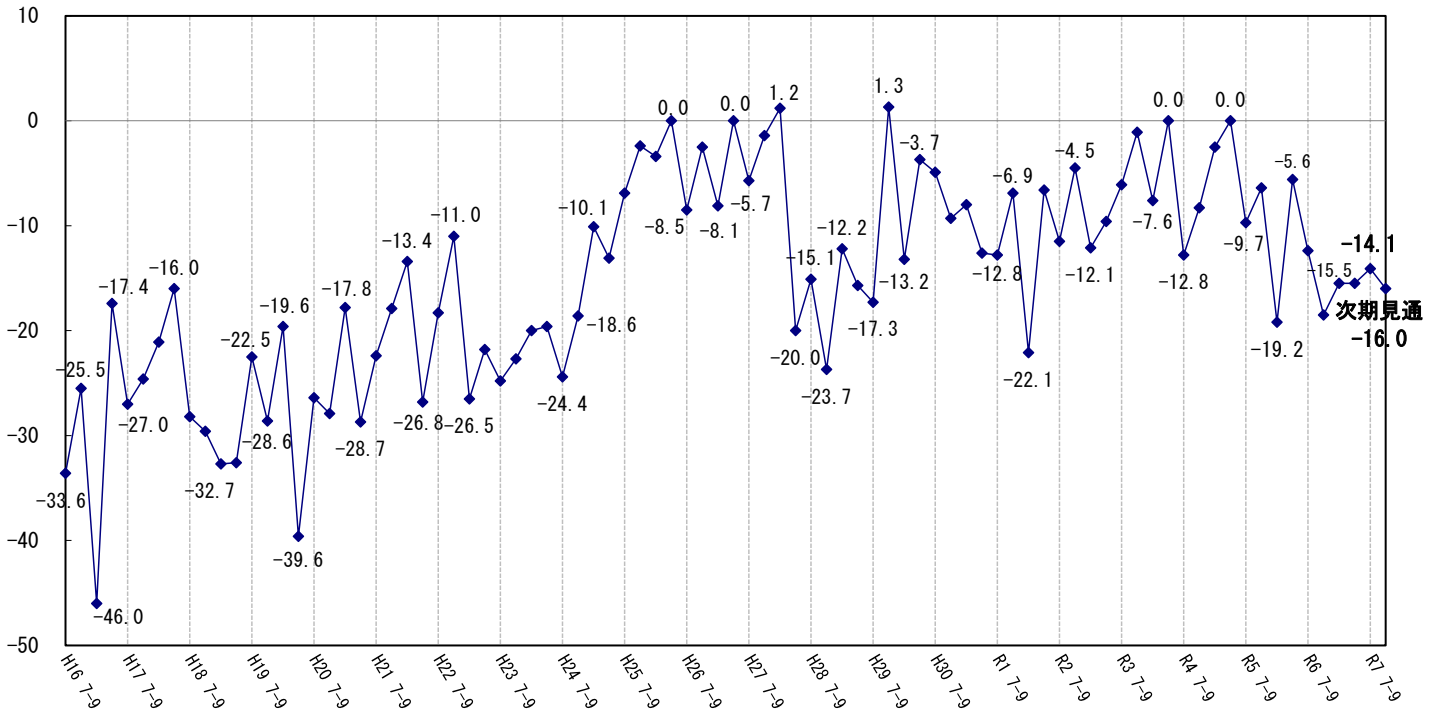
〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲37.5→▲50.0〕 水産業〔前年▲10.0→▲50.0〕
 機械工業〔前年▲17.7→▲33.3〕 建設業〔前年▲13.0→▲22.7〕
 観光・サービス業・諸業〔前年▲27.3→▲55.6〕

(3) 今期の資金繰り

資金繰り推移（全業種平均D・I）

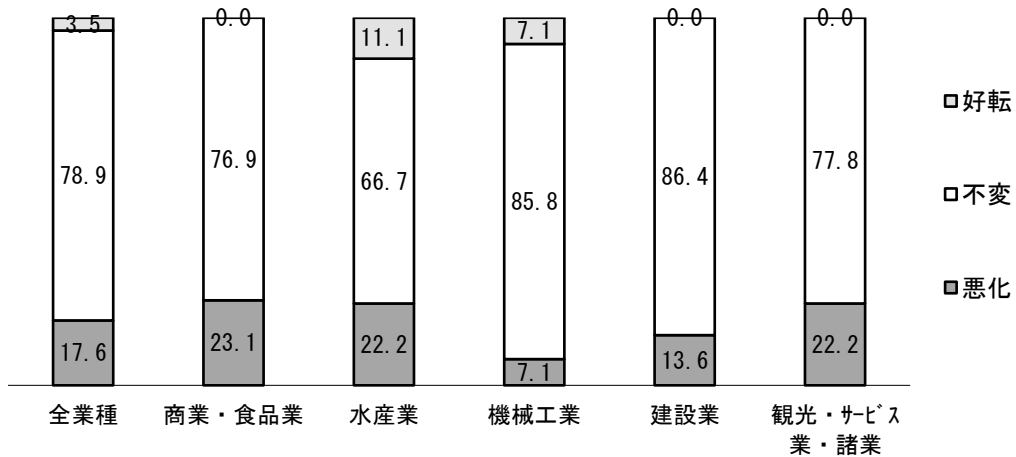
（好転－悪化）

前年同期比



【前年同期比】（2024（令和6）年7月～9月期の水準と比較した今期の資金繰り）

今期の資金繰り（前年同期比）



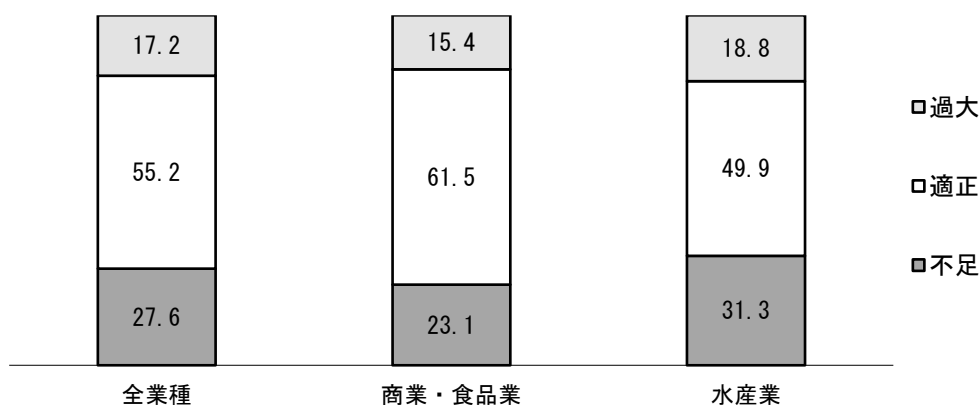
全業種平均でDI値▲14.1〔前年調査時（2024年7～9月期▲12.4）より1.7ポイント悪化〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲25.0→▲23.1〕、水産業〔前年▲0.0→▲11.1〕
 機械工業〔前年▲25.0→0.0〕、建設業〔前年▲8.7→▲13.6〕
 観光・サービス業・諸業〔前年▲9.1→▲22.2〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】(2024(令和6)年7月～9月期の水準と比較した今期の在庫水準)

今期の在庫水準(前年同期比)



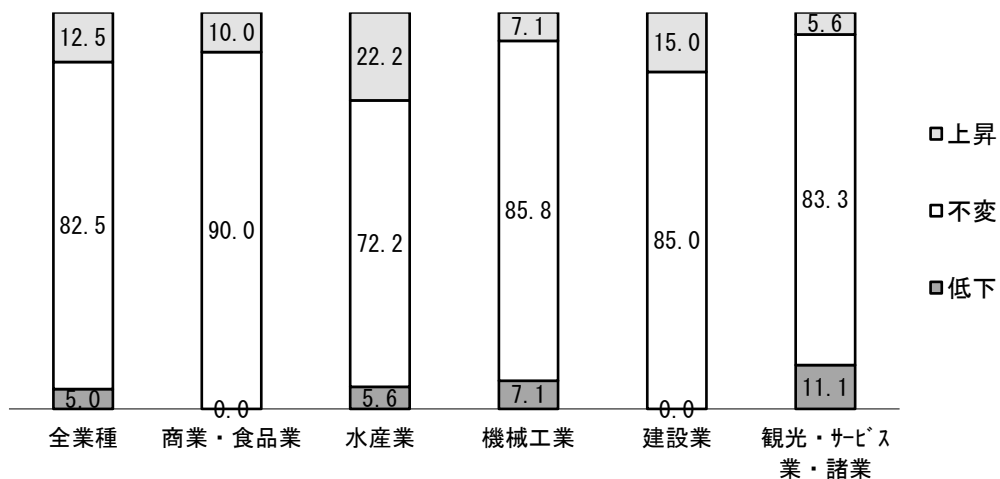
全業種平均でDI値▲10.3〔前年調査時(令和6年7～9月期▲20.6)より10.3ポイント過大傾向〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲31.2→▲7.7〕、水産業〔前年▲11.1→▲12.5〕

(5) 今期の借入金の金利水準

【前年同期比】(2024(令和6)年7月～9月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準)

今期の借入金の金利水準

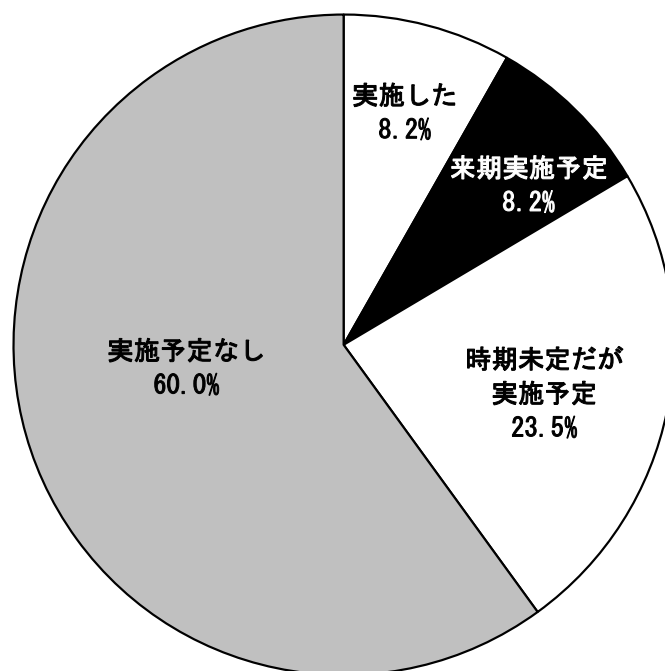


全業種平均で7.5。商業食品業10.0、水産業16.7、機械工業0.0、建設業15.0、観光サービス諸業▲5.5。

(6) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

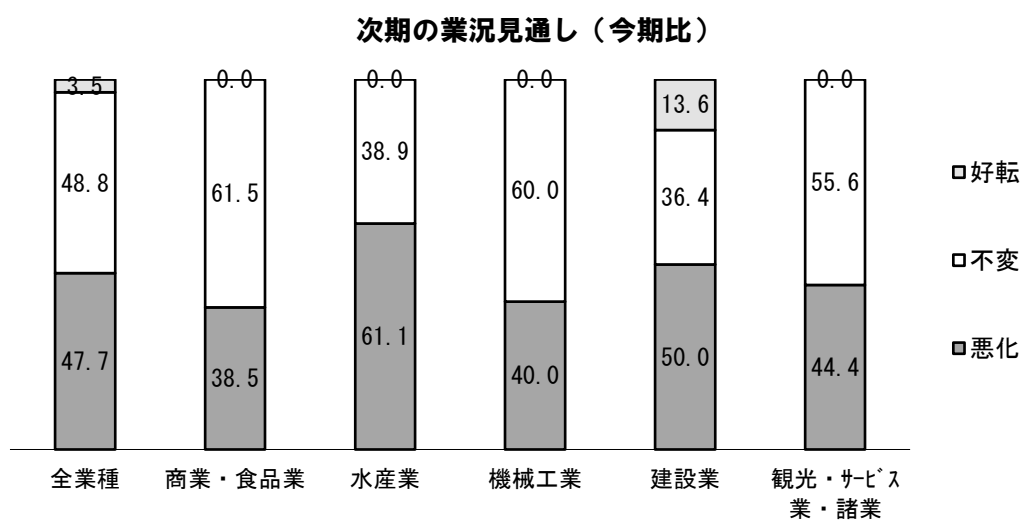
設備投資の実施状況



3. 来期の見通し

(1) 来期の業況見通し

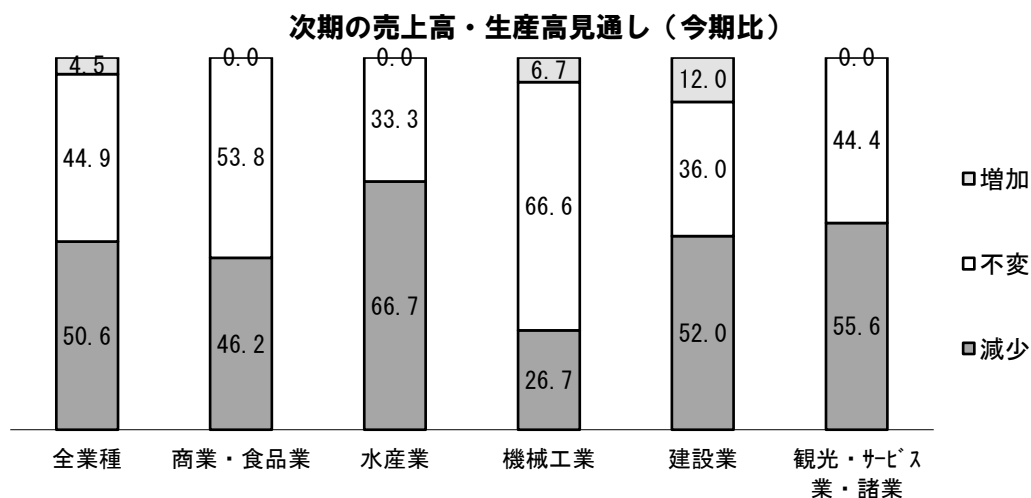
【今期比】(2025(令和7)年7月~9月期の水準と比較した来期の業況見通し)



全業種平均DI値▲44.2〔今期の業況▲44.2と同水準の見通し〕

(2) 来期の売上高・生産高見通し

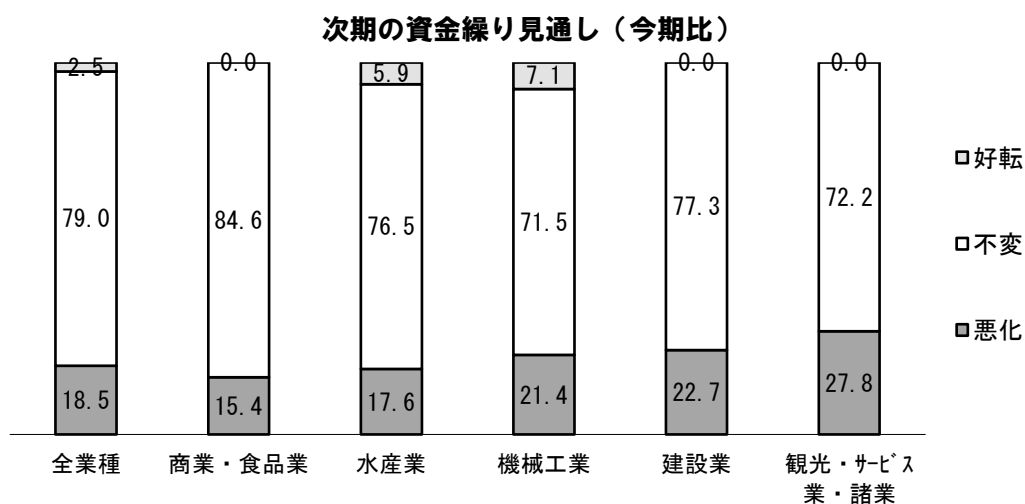
【今期比】（2025（令和7）年7月～9月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）



全業種平均 DI 値▲46.1〔今期の売上高・生産高▲37.2と比較し、8.9ポイント悪化見通し〕

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（2025（令和7）年7月～9月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）



全業種平均 DI 値 ▲16.0〔今期の資金繰り▲14.1より1.9ポイント悪化の見通し〕

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サービス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	▲44.1	▲46.1	▲55.6	▲26.6	▲45.5	▲44.4
	来期見通し	▲44.2	▲38.5	▲61.1	▲40.0	▲36.4	▲44.4
売上高・ 生産高 D・I	今期実績	▲37.2	▲38.5	▲44.4	▲6.7	▲40.9	▲50.0
	来期見通し	▲46.1	▲46.2	▲66.7	▲20.0	▲40.0	▲55.6
在庫 D・I	今期実績	▲10.3	▲7.7	▲12.5	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	▲41.2	▲50.0	▲50.0	▲33.3	▲22.7	▲55.6
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	▲14.1	▲23.1	▲11.1	0.0	▲13.6	▲22.2
	来期見通し	▲16.0	▲15.4	▲11.8	▲14.3	▲22.7	▲27.8
借入金 金利水準 D・I	今期実績	7.5	10.0	16.7	0.0	15.0	▲5.5
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準D・I値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。